

2020年2月期第1四半期決算

<参考資料>

2019年 6月28日

くらしの「あたらしい幸せ」を発明する。



2019年度1Q 連結業績(IFRS)



- ▶ 百貨店事業、パルコ事業、不動産事業、クレジット金融事業などすべてが増収
- ▶ 増収による総利益増で事業利益は増益も、その他費用増で営業利益は減益
- ▶ 連結トータルで概ね計画通りの進捗により4月予想数値は据置き

(単位:百万円、%)

2020年2月期	1Q			上期		
	実績	対前年		見通し (4月予想)	対前年	
		増減高	増減率		増減高	増減率
総額売上高	274,002	4,123	1.5	557,000	9,891	1.8
売上収益	112,482	1,409	1.3	229,000	1,794	0.8
売上総利益	52,167	422	0.8	106,300	1,350	1.3
販売管理費	39,691	242	0.6	82,300	1,622	2.0
事業利益	12,476	181	1.5	24,000	△271	△1.1
その他の営業収益	827	△156	△15.9	1,100	△554	△33.5
その他の営業費用	509	229	81.6	1,500	△207	△12.2
営業利益	12,794	△204	△1.6	23,600	△618	△2.6
親会社の所有者に 帰属する四半期利益	7,447	△895	△10.7	13,800	△2,110	△13.3

2019年度1Q セグメント情報(IFRS)

- ▶ 百貨店事業は増収も、益率ダウンやシステム費用増などの影響により減益
- ▶ パルコ事業は錦糸町パルコ開業効果や既存店改装効果等により増収増益
- ▶ 不動産事業はG6等が堅調のほか神戸店周辺店舗移管上積みで増収増益
- ▶ その他は百貨店改装などで好調な建装事業のJ.フロント建装が牽引

(単位:百万円、%)

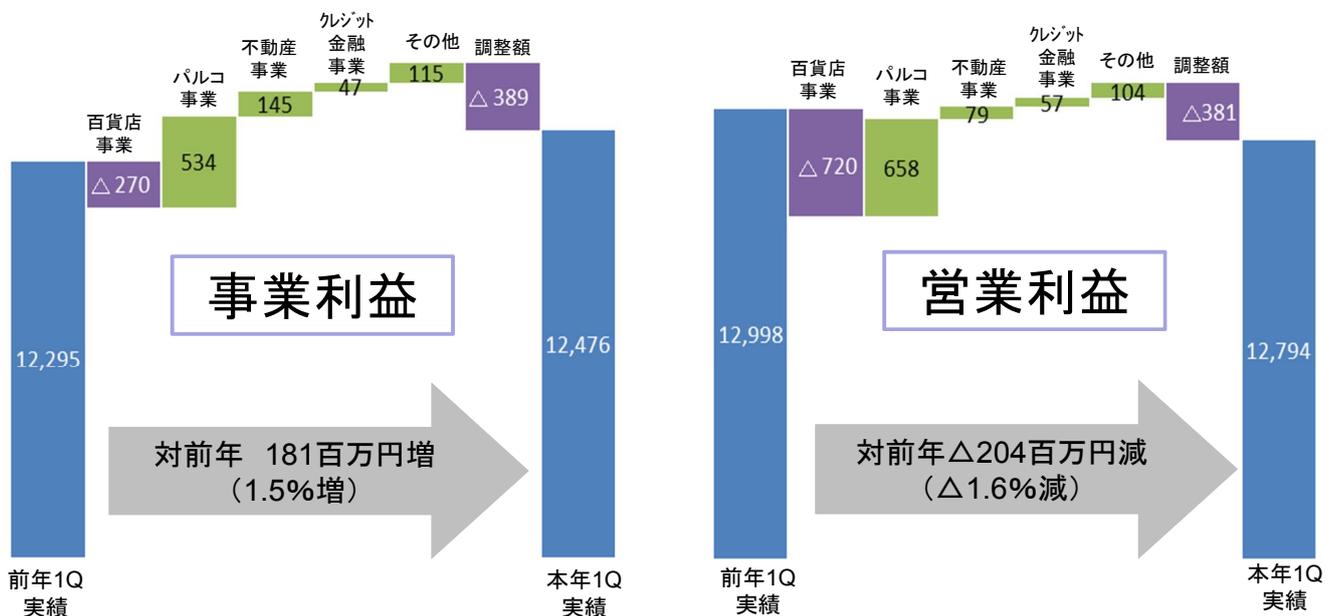
2020年2月期 1Q	事業利益			営業利益		
	実績	対前年		実績	対前年	
		増減高	増減率		増減高	増減率
百貨店事業	6,404	△270	△4.0	6,130	△720	△10.5
パルコ事業	2,817	534	23.4	3,408	658	23.9
不動産事業	1,710	145	9.2	1,686	79	4.9
クレジット金融事業	781	47	6.4	795	57	7.7
その他	848	115	15.7	829	104	14.3
合計	12,476	181	1.5	12,794	△204	△1.6

2

2019年度1Q セグメント情報(IFRS)

2019年度1Q(3~5月累計) 連結
セグメント別 事業利益・営業利益増減分析

(単位:百万円)



3

- ▶ 百貨店売上高は好調を継続するインバウンドが牽引し3月、4月、5月とも増収
- ▶ 不動産はGINZA SIX、上野FT堅調、神戸店周辺店舗の移管も加わり増収
- ▶ 事業利益は百貨店が益率低下、システム費増で減益も、不動産事業は増益

(単位:百万円、%)

2020年2月期 1Q	百貨店事業			不動産事業			大丸松坂屋百貨店合計		
	実績	対前年		実績	対前年		実績	対前年	
		増減高	増減率		増減高	増減率		増減高	増減率
総額売上高	158,479	321	0.2	4,456	265	6.3	162,875	585	0.4
売上収益	59,205	239	0.4	4,421	278	6.7	63,566	516	0.8
売上総利益	34,433	△275	△0.8	2,354	156	7.1	36,727	△15	△0.0
販売管理費	28,594	△1	△0.0	644	12	1.8	29,179	116	0.4
事業利益	5,838	△275	△4.5	1,710	145	9.2	7,548	△130	△1.7
その他営業収益	92	△197	△68.2	1	△57	△96.6	94	△253	△73.0
その他営業費用	323	200	162.6	26	9	50.4	349	209	148.6
営業利益	5,606	△672	△10.7	1,686	79	4.9	7,292	△593	△7.5

4

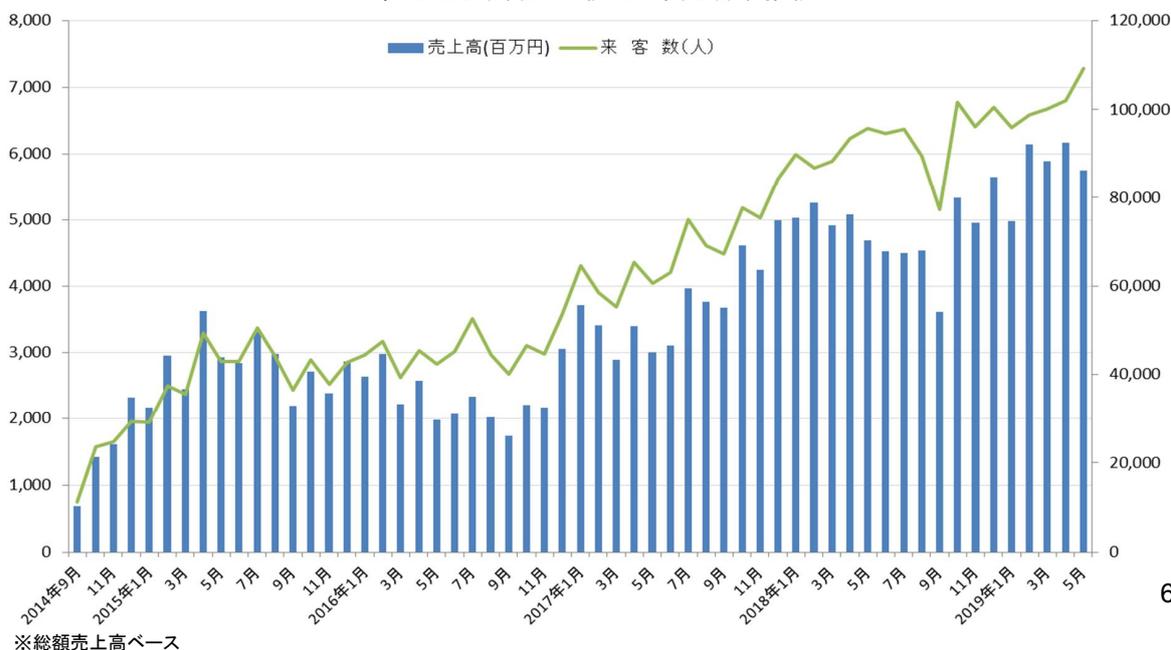
- ▶ 人件費圧縮や、IFRS16号適用影響による賃借料の大幅マイナス要素あるも、面前決済対応に伴うシステム費、CRM強化による販促費増などでコスト増

2020年2月期 1Q(3-5月)	実績 (百万円)	増減高 (百万円)	増減率 (%)	主な増減要因
人件費	6,220	△137	△2.1	人員自然減など
広告宣伝費	2,495	226	9.9	新顧客戦略ツール強化、文化催事強化など
包装配達費	419	61	17.1	物流費値上げ
賃借料	119	△4,045	△97.1	主にIFRS16号影響
減価償却費	5,508	3,393	160.4	主にIFRS16号影響
作業費	3,168	798	33.7	面前決済対応などシステム費用増
その他	11,246	△182	△1.6	
合計	29,179	116	0.4	

5

- ▶ 免税売上は1Q(3-5月度累計)で177億円、対前年21.2%増と高水準をキープ
- ▶ 売上シェア11.2%と四半期で初めて2桁台へ。客数12.1%増、客単価8.1%増
- ▶ 化粧品を中心とする消耗品売上3割増、シェア56.9%(前年同期比+4.9ポイント)

＜大丸松坂屋百貨店 免税売上高と客数推移＞



6

＜ご参考＞ 新リース会計基準(IFRS第16号)について

当社グループは、過去にIAS第17号を適用してオペレーティング・リースに分類したリースについて、IFRS第16号の適用開始日に、使用権資産及びリース負債を認識しております。リース負債は、リース料総額の未決済分を適用開始日現在の借手の追加借入利率を用いて割り引いた現在価値で測定しております。使用権資産は、IFRS第16号がリース契約の開始日から適用されていたかのように遡及的に測定しております。

この結果、適用開始日の連結財政状態計算書において、資産が2,106億円、負債が2,252億円それぞれ増加、資本が145億円減少しております。なお、2019年度の連結損益計算書において、従来基準(IFRS第16号適用前)と比較し、営業利益が約46億円増加する一方、当期利益に与える影響は軽微であると見込んでおります。また、2019年度の営業活動によるキャッシュ・フローは従来基準と比較し、約280億円増加し、財務活動によるキャッシュ・フローが同額減少すると見込んでおります。

Website

<https://www.j-front-retailing.com>

くらしの
「あたらしい幸せ」を
発明する。



J. FRONT RETAILING

本資料における業績予測や将来の予測に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性その他の要因が内包されております。従いまして、様々な要因の変化により、実際の業績は、見通しと大きく異なる可能性があることをご承知おきください。